

研究開発構想名「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブな人材の育成

1 目指すべきイノベティブなグローバル人材像

「世界の平和と共生」をテーマに、他と協働しながら困難や障壁を克服し世界に新しい価値を創出し発信できる人材を育成する。

本事業では、長崎を様々な文化・価値観・社会課題等が交わる「クロスロード」と捉え、日本と海外、文系と理系、都市部と遠隔地等の「協働・共創」をキーワードに、SGHの成果と課題を踏まえて設定した以下の資質・能力等を備えた人材の育成を目指す。

【平和で持続可能な社会の構築を担うイノベティブなグローバル人材像】

ア 育成したい資質・能力（コンピテンシー及び探究スキル）

- ①自ら発見・定義した課題に主体的に向き合い、解決に近づく力（課題発見・解決力）
- ②学んだことを活用し、新たな価値を創造する力（創造力）
- ③物事を多角的に捉えて、情報を選択・分析し適切に活用する力（情報分析・活用力）
- ④自分の考えや意見を効果的に表現・発信し、他者に影響を与える力（自己表現力）

イ 育成したい心構え・考え方・価値観等（マインドセット）

- ⑤多様な文化的背景を持つ人々と対話や議論を通じて協働する姿勢（協働性）
- ⑥学問に高い関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢（学ぶ意欲）
- ⑦世界平和を希求し、持続可能な社会の形成に貢献しようとする姿勢（地球市民性）

2 「WWL 7」の策定

上記7つのスキルおよびマインドセットを5段階（S A B C D）で自己評価ができるよう、年度当初にルーブリック（WWL 7）を開発し、HP上で公開している。URLは以下のとおりである。なお「WWL 7」は本資料 p.21「参考資料1」に掲載する。

<http://www.news.ed.jp/higashi-h/21wwl/sgh/images/wwl7higashirubric.pdf>

3 特別の教育課程

(1) 新たな学校設定科目、対象、形態、評価等

- ①科目名：IGR（Integrated Global Research）「統合型グローバル探究」
- ②対象：高校1学年全員（281名）
- ③形態：週1単位（年間をとおして実施）、クラスまたは学年での指導
- ④評価（100点法）：
 - ア 項目…意欲・関心・態度・活動（50点）、研究レポート（40点）、発表（10点）
 - イ 評価者…クラス担任・副担任

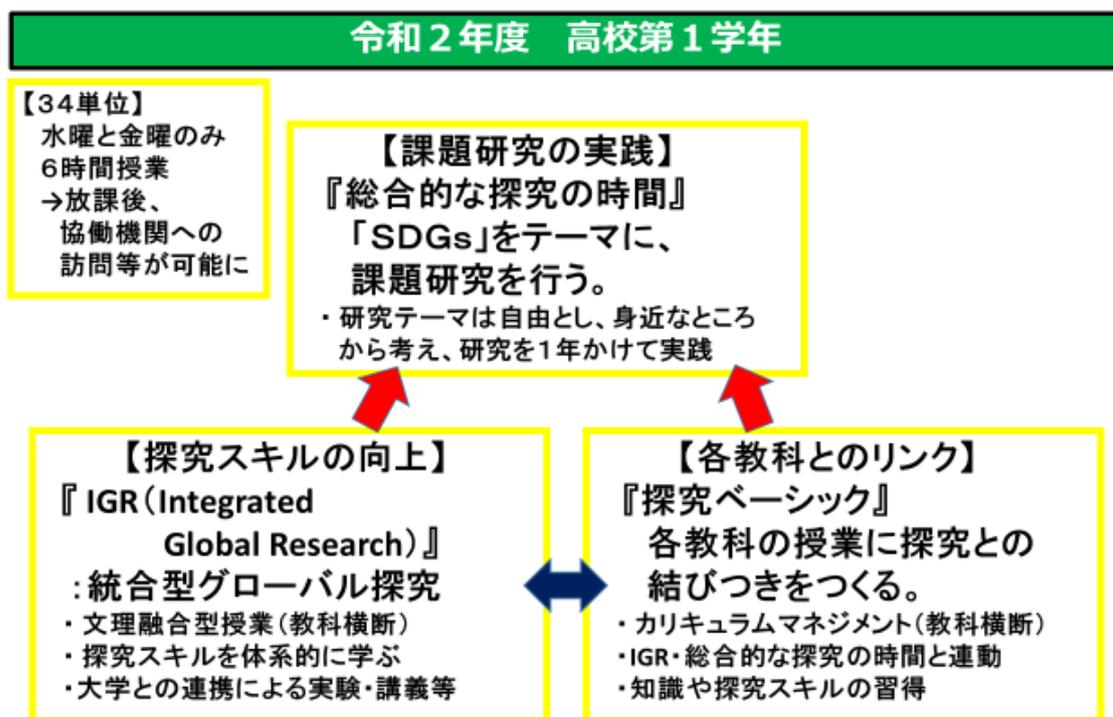
※研究レポートと発表（プレゼンテーション）の評価は、原則ルーブリックに基づいて実施する。上位大会進出者は「活動」評価項目に加点する。

- ⑤補足： 令和2年度より、「国語総合」「数学Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅰ」を1単位ずつ減じ、水曜日と金曜日の7校時を学年裁量の時間に設定した。これによって IGR と総合的な学習の時間に加え、探究学習に充当できる時間を週あたり最大4時間確保した。このことは、平成27年度から令和元年度までのSGH事業において、探究活動による生徒や教員が多忙であったことを鑑み、改善したものである。

(2) 実施内容・実績

高校1年次に開講する IGR では、文理を融合し複数の学問分野や多文化の視点から社会課題にアプローチし解決を図るための手法を体系的に学ぶ。まず、SDGs のゴール・ターゲットと各教科の学習内容を関連させ、グループワークや発表を通じて現状や今後の課題等について考察させる。また、フィールドワーク、データ分析等の探究スキルを育成する。大学教員の専門的視点を取り入れた実験や調査、大学(院)生や外国人講師を活用した日本語と英語によるディスカッションや発表を系統的に組み込む。IGR は2・3年次の「総合的な探究の時間」への導入的位置付けであり、その後企業・NPO等の視点も加え、さらに高度な課題研究や国際会議の開催につなげる。R2年度は150以上の企業・行政機関および大学の専門家とオンラインによる意見交換や講演会を実施した。

下図は「IGR」「総合的な探究の時間」「探究ベーシック（各教科）」との相関を示したものであり、「探究ベーシック」で実施した内容を次ページに掲載する。



探究ベーシック

教科	内容	関連する SDGs番号
国語	『羅生門(芥川龍之介)』+「貧困は自己責任なのか(湯浅誠)」(『羅生門』を小説として味わった後、「貧困は…」で論じられている内容を元に『羅生門』の主人公達が置かれている状況を分析していく。*最終時には、下人の救済策を考えさせる。	1
数学	数学I(論理と集合、2次関数)の内容の中で、協働する力を養い、目標を達成するためのプロセスを経験する。	17
化学 基礎	“化学反応の量的関係と環境問題の考察 ①日本の天然ガス消費による二酸化炭素の排出量 ②二酸化炭素濃度の増加により炭酸カルシウムを骨格とする海の生物に与える影響”	13・14
現代 社会	7月より国際政治分野に入る。国連の役割や機構について学ぶなかで、SDGsの目標すべてが、国連の存在目的(国連憲章第1条)から発したものであることを理解するはず。	“10・16・ 17中心”
家庭	エコクッキングを取り入れた弁当献立を考える	2・13
保健	感染症について(現代の感染症、感染症の予防、性感染症・エイズとその予防)	3
英語	CROWN Communication English I Lesson 5 Food Bank	2

また、本報告書 p. 2 の 3 (1) ⑤に記載した、総合的な学習の時間、IGR、水曜日の7校時と金曜日の7校時に関するカリキュラムマネジメントの主な内容は p. 22～p. 23 の参考資料2に掲載している。

次に、主として IGR の時間を中心に、学年全職員で取り組んだ事例を2つ紹介する。

①探究チャンネル(オンライン)

目的: 各分野で活躍されている講師から、実践的な課題解決への取り組みや成功事例を聞き、課題研究への基礎知識を得る

内容: オンラインによる講演、課題研究に関する質疑

実施日: 令和2年7月30日～8月7日

対象: 高1全員、高2の希望者、連携校等の生徒

実績:

7/30	出水享先生(長崎大学)、大瀬良亮氏(Hafh)、松田真吾氏(アサヒ飲料株式会社)
7/31	阿多美咲氏(長崎大学経済学部学生)、西山淳哉氏(一般社団法人パルシップ)、稲本聡子氏(大阪学院大学バスケットボール部)、岸良広大氏(CAPPA)、低引稔氏(バンガシラ)
8/3	黒川智夫館長(国立長崎原爆死没者追悼平和記念館)、坂井健氏(e-Education) 中西悦子氏(パタゴニア)、徳田光弘先生(九州工業大学)
8/4	鳥巢智行氏(電通)、岩下英樹氏・井田祐介氏((株)リージョナルクリエイション長崎) 岩本諭氏(つくるのわデザイン)
8/5	堂原有美氏(「教室から世界一周!」プロジェクト主宰)、佐藤洋平氏(フリー) 清野未恵子先生(神戸大学)、山東晃大氏(京都大学経済研究所研究員)

8/7	藤森啓介氏（一般社団法人スポーツコーチングJapan）、濱本翔氏（五島市役所） 清野聡子先生（九州大学）
-----	---

②長崎チャンネル（オンライン）

目的：各分野で活躍されている講師から、SDGs とビジネスとの関わりや国際的な諸課題および地域課題の解決につながる事業などについて学び、日頃の探究活動が実社会の取組につながることを実感する。また、大学での高度な学びを体感する。

内容：オンラインによる講演、課題研究に関する質疑

実施日：令和2年10月16日

対象：高1の希望者、高2全員、連携校等の生徒

実績：次ページに掲載

長崎チャンネル 講演者・講演内容 紹介文【参考】

番号	機関名	講演者	講演者紹介・タイトル・内容
1	長崎純心大	Simon Hull (サイモン・ハル) 先生	【講演者紹介】人文学部 文化コミュニケーション学科 講師 【講演内容】 長崎の近代化に至るまでの歴史をたどりながら、 <u>欧米人から(外から)見た「長崎」とはどのような存在なのか、その概念について講演していただきます。なお、全て英語による講演をおこなっていただきます。</u>
2	長崎県立大	小原篤次(おはら あつじ) 先生	【講演者紹介】国際社会学部 准教授 【講演内容】 タイトルは「フィールドワーク学習：社会から学ぶ」コロナ禍のなかでの学校の外、地域社会でのインタビューやアンケート調査の方法とその注意点について、ご講演をいただきます。
3	長崎新聞社	酒井環(さかいたまき) 先生 報道部記者	【講演者紹介】長崎新聞社報道部 記者 【講演内容】 <u>SDGsの達成につながる、世界平和を希求する平和記事作成</u> において、その実情についてご講演をいただきます。
4	ハウステンボス	柚木達矢(ゆのきたつや) 先生	【講演者紹介】ハウステンボス株式会社 営業本部 部長 【講演内容】 <u>ハウステンボスの経営戦略とSDGsへの取組</u> について、ご講演をいただきます。
5	協和機電	松園理恵子(まつぞのりえこ) 先生	【講演者紹介】協和機電工業 海外事業部 海外営業グループ 【講演内容】 <u>協和機電工業は、国内外でグローバルな活躍を果たす、長崎が誇るSDGs企業です。</u> その取組について、ご講演いただきます。
6	長崎大学 FFG (十八親和銀行)	山下淳司(やました) 先生 上條由紀子(かみじょう) 先生	【講演者紹介】 長崎大学 FFGアントレプレナーシップ センター長・教授(山下)、教授・弁理士(上條) 【講演内容】 タイトルは「 <u>SDGs達成や地域課題解決に必要となるアントレプレナーシップ(起業家精神)とイノベーション</u> 」。先進的なイノベーションを起こす人材となるための教育プログラムを実践されている先生方からご講演をいただきます。
7	九州教具	船橋修一(ふなはししゅういち) 先生	【講演者紹介】九州教具株式会社 代表取締役社長 【講演内容】 「SDGs」への取組について、地域企業の第一線で活躍される立場からご講演をいただきます。
8	(株)イシマル	石丸太望(いしまるたいぼう) 先生	【講演者紹介】イシマル株式会社 専務取締役 【講演内容】 タイトルは「 <u>コロナ禍における地域社会への貢献～石丸グループの取組～</u> 」。イシマル様は、長崎県を代表するITソリューション企業です。今回特別にご講演をいただきます。
9	JICA長崎デスク	戸崎千尋(とさきちひろ) 先生	【講演者紹介】JICA長崎デスク 国際協力推進員 【講演内容】 今回は、JICAの取り組みについて、ICA海外協力隊について、協力隊体験談(スリランカ/高齢者介護)についてご講演いただきます。
10	ジャパネットたかた	田河毅宜(たがわたけのり) 先生	【講演者紹介】株式会社リージョナルクリエーション長崎 商業飲食事業企画運営部 商業事業企画課 【講演内容】 長崎の地方創生に取り組まれているその輝かしい実践について、ご講演をいただきます。
11	地域循環研究	豊澤健太(とよざわけんた) 先生	【講演者紹介】NPO法人 地域循環研究所 所員 【講演内容】 地域循環研究所の事業内容とSDGsとの関わり、また先生の体験談について、ご講演をいただきます。
12	京セラ	植田和久(うえだかずひさ) 先生	【講演者紹介】人材統括部 人材開発部 採用課 東京係 【講演内容】 京セラは、素材から部品、デバイス、機器、さらにはサービスやネットワーク事業にいたるまで、多岐にわたる事業をグローバルに展開する企業です。今回特別にご講演いただきます。
13	つくるのわ	岩本諭(いわもとさとし) 先生	【講演者紹介】岩本 諭(30歳)：コミュニティデザイナー 斜面地に増えている空き家問題を解決するため活動している。斜面地・空き家活用団体つくるのわ代表/ 【講演内容】長崎市主催の「ながさき若者会議」の中心者であり、本校の生徒もたくさんお世話になっています。今回は、長崎をどのように創生し輝かせていくか、多様なアイデアと実践例についてご講演をいただきます。
14	五島市ドローン	濱本翔(はまもとしょう) 先生	【講演者紹介】五島のドローン物流の仕掛人。五島市地域おこし協力隊としてドローンとAIを活用した農地作付け確認、海ごみ調査、ドローン物流の運営から広報まで全般を担当し、高齢化や人口減少が進む五島市で、人の暮らしに寄り添うドローンの産業活用の取り組みを推進。 【講演内容】地域創生におけるドローン活用の五島市の挑戦について、ご講演をいただきます。

4 評価・効果・民間試験結果・成果の普及

(1) 高1生徒自己評価

本報告書 p. 1 に記載した「WWL 7」における7つのスキルおよびマインドセットについて、高校1年生の自己評価を下記に示す。IGR や探究学習に関する様々なプログラムや教育活動をとおして生徒の自己肯定感を醸成することができたと考える。

WWL1	課題発見・解決力		
	1学期	2学期	3学期
S	0%	3%	8%
A	33%	51%	65%
B	43%	40%	24%
C	23%	6%	3%
D	1%	0%	0%

WWL 2	創造力		
	1学期	2学期	3学期
S	2%	5%	10%
A	21%	29%	37%
B	48%	52%	45%
C	26%	14%	8%
D	3%	0%	0%

WWL 3	情報分析・活用力		
	1学期	2学期	3学期
S	5%	9%	12%
A	23%	40%	49%
B	44%	43%	35%
C	23%	7%	3%
D	4%	0%	1%

WWL 4	自己表現力		
	1学期	2学期	3学期
S	8%	8%	7%
A	30%	33%	44%
B	43%	51%	46%
C	17%	6%	3%
D	3%	2%	1%

WWL 5	協働性		
	1学期	2学期	3学期
S	10%	12%	18%
A	43%	44%	52%
B	42%	37%	26%
C	5%	6%	4%
D	0%	2%	0%

WWL 6	学ぶ意欲		
	1学期	2学期	3学期
S	2%	13%	2%
A	14%	47%	35%
B	56%	36%	50%
C	28%	4%	13%
D	1%	0%	0%

WWL 7	地球市民性		
	1学期	2学期	3学期
S	5%	3%	6%
A	13%	25%	28%
B	45%	53%	46%
C	36%	17%	20%
D	0%	2%	0%

(2) 高1生徒・保護者による学校評価

高校1年生による学校評価（p. 24「参考資料3」）によると、項目8「奉仕的な活動への参加」や項目9「校外での研修への参加」に対する肯定的な回答はそれぞれ33.8%、23.4%と低い割合であった。このことは、新型コロナウイルス感染症の影響によるものが大きいと考察する。

項目11「将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている」生徒は42.8%であった。学校目標値は60%であるため、卒業次には目標値を達成したい。しかしながら、半数近い生徒がグローバル「人材」ではなく、グローバル「リーダー」として活躍したいと考えていることを評価する教員も多い。また、高校1年生保護者による学校評価（p. 25「参考資料4」）によると、項目5「学校は国際社会で活躍できる人材育成に努めている」と考えている保護

者は 91.5%と高い割合であった。

IGR や総合的な学習の時間を中心に 150 を超える大学・企業・行政機関・NGO 等の専門家と課題研究に関する連携や講演会を実施した結果、項目 22「主体的に社会の参画を目指している」という自己評価項目に肯定的な回答をした高 1 生徒の割合は 73.6%であった。高校全生徒（高 1～高 3）の集計ではあるものの、H29 は 48.9%、H30 は 45.7%、R1 は 54.1%であったことから、かなり高い有意差であると結論づけられる。

(3) 効果

IGR の実施効果として、各教科の授業で探究スキルを育成する「探究ベーシック」の時間を新たに設定できたことがあげられる。これによって、IGR や総合的な学習の時間との連動性が高まり、教科横断的な取り組みにつながった。中高全教員に実施した自己評価項目では、授業改善に取り組んだ教員の割合が 97.4%、ICT 機器を効果的に活用している教員の割合は 88.2%、公開授業を実施した教員の割合が 88.2%であった。

また、年に 2 回（7 月と 10 月）公開授業月間を設定し、校種や教科を越えて授業参観および授業評価を実施した。下記に掲載する「授業参観記録シート」を開発し活用した。

授業参観記録シート ※記入後は、1 枚を授業者に渡し、コピーを中央テーブル上の箱にご提出ください。

観察者氏名(所属)： (中高)

日時/場所	令和2年 月 日()	校時/場所()
対象	中・高 年 組	教科
授業者		(科目)
参観しての気づき	・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】	
	<input type="checkbox"/> ①貧困をなくそう <input type="checkbox"/> ②飢餓をゼロに <input type="checkbox"/> ③すべての人に健康と福祉を <input type="checkbox"/> ④質の高い教育をみんなに <input type="checkbox"/> ⑤ジェンダー平等を実現しよう <input type="checkbox"/> ⑥安全な水とトイレを世界中に <input type="checkbox"/> ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに <input type="checkbox"/> ⑧働きがいも経済成長も <input type="checkbox"/> ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう <input type="checkbox"/> ⑩人や国の不平等をなくそう <input type="checkbox"/> ⑪住み続けられるまちづくりを <input type="checkbox"/> ⑫つくる責任つかう責任 <input type="checkbox"/> ⑬気候変動に具体的な対策を <input type="checkbox"/> ⑭海の豊かさを守ろう <input type="checkbox"/> ⑮陸の豊かさを守ろう <input type="checkbox"/> ⑯平和と公正をすべての人に <input type="checkbox"/> ⑰パートナーシップで目標を達成しよう	
伸ばそうと意図されていた力	<input type="checkbox"/> ①主体的に課題に向き合い発見・解決する力 <input type="checkbox"/> ②学んだことを活用し、新たな価値を創造する力 <input type="checkbox"/> ③物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力 <input type="checkbox"/> ④考え・意見を発信し、他者に影響を与える力 <input type="checkbox"/> ⑤多様な人々対話や議論を通じて協働する姿勢 <input type="checkbox"/> ⑥学問に関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢 <input type="checkbox"/> ⑦世界平和を希求し、持続可能社会に貢献する姿勢	
	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ひがしWWL7</div>	

(4) GPS-Academic (Global Proficiency Skills program) の結果分析

ベネッセコーポレーションが実施している GPS テストでは、批判的思考力や協働的思考力におけるA評価（高校卒業程度）以上の高校1年生（265名受験）の割合がそれぞれ35%と39%であった。本テストは平成28年度から5年間実施しているが、批判的思考力は過去5年間で最も高く、協働的思考力は2番目に高い結果であった。課題としては、GPS テストで測定する創造的思考力におけるA評価以上の高校1年生の割合が21%であり、過去5年間では最も低い数値であったことである。

高1						高1						高1					
批判的思考力						協働的思考力						創造的思考力					
	H28	H29	H30	R1	R2		H28	H29	H30	R1	R2		H28	H29	H30	R1	R2
S	0%	0%	0%	0%	0%	S	1%	1%	0%	0%	0%	S	1%	3%	1%	2%	1%
A	15%	17%	28%	34%	35%	A	39%	23%	23%	36%	39%	A	27%	24%	49%	45%	20%
B	72%	68%	68%	64%	57%	B	53%	64%	68%	60%	52%	B	65%	50%	47%	49%	69%
C	13%	14%	4%	2%	8%	C	7%	13%	9%	4%	9%	C	7%	22%	3%	4%	11%
D	0%	0%	0%	0%	0%	D	0%	0%	0%	0%	0%	D	0%	1%	0%	0%	0%

次に、上記 GPS テストの結果と課題研究優秀班（17名）との相関は次のようになる。

高1							R2	高1							R2	高1							R2
批判的思考力							優秀班	協働的思考力							優秀班	創造的思考力							優秀班
	H28	H29	H30	R1	R2	17名		H28	H29	H30	R1	R2	17名		H28	H29	H30	R1	R2	17名			
S	0%	0%	0%	0%	0%	0%	S	1%	1%	0%	0%	0%	0%	S	1%	3%	1%	2%	1%	6%			
A	15%	17%	28%	34%	35%	41%	A	39%	23%	23%	36%	39%	53%	A	27%	24%	49%	45%	20%	41%			
B	72%	68%	68%	64%	57%	59%	B	53%	64%	68%	60%	52%	41%	B	65%	50%	47%	49%	69%	41%			
C	13%	14%	4%	2%	8%	0%	C	7%	13%	9%	4%	9%	6%	C	7%	22%	3%	4%	11%	12%			
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	D	0%	1%	0%	0%	0%	0%			

青で示したように、A評価以上の割合は3つの思考力いずれも優秀班の方が高く、特に「創造的思考力」においてS評価・A評価ともに高1全体の割合よりもかなり高い数値となった。もともと創造的思考力が高いために課題研究で優秀（主として担任と副担任が研究レポートで評価）な結果を得たのか、課題研究への取り組みによって創造的思考力が伸張したかは不明ではあるが、創造的思考力と課題研究評価には有意な相関が見られた。

次に、GPS テスト結果と課題研究レポートのルーブリック評価とをクロス分析した結果が次の表である。

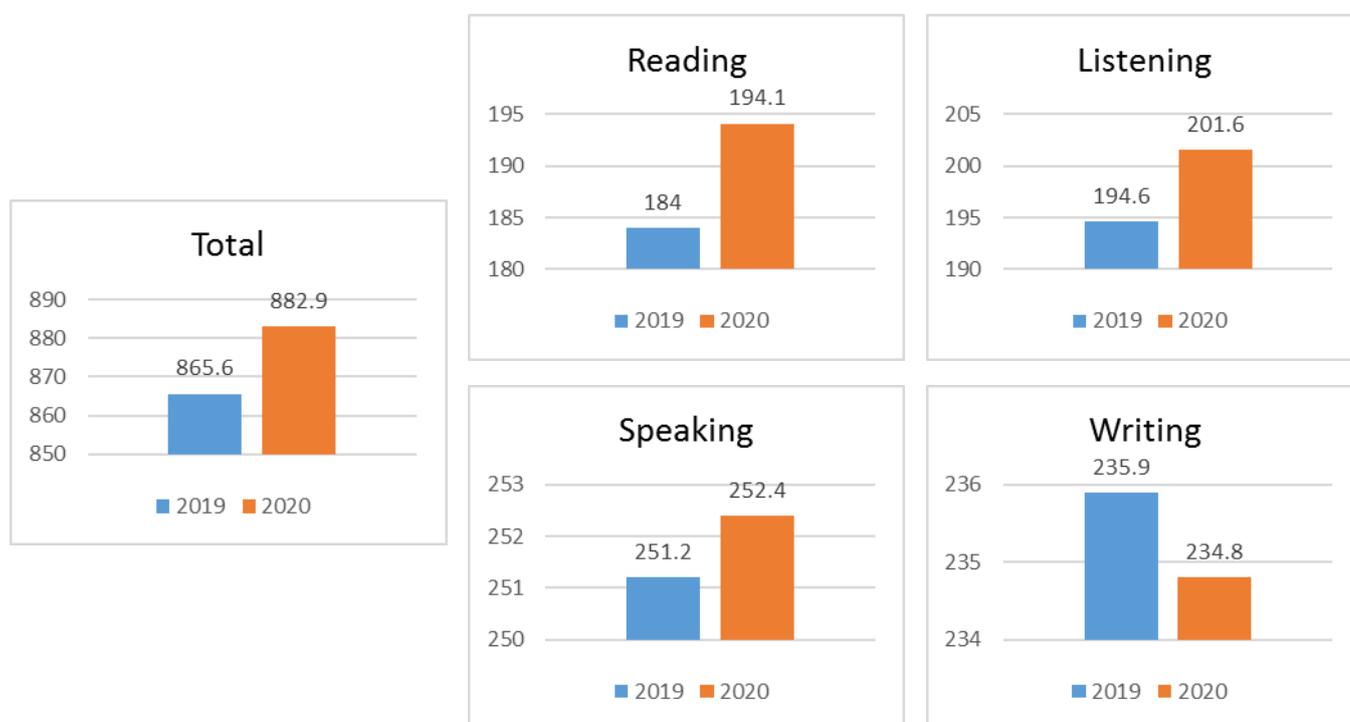
GPS	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
レポート	A以上	C以下	A以上	C以下	A以上	C以下
S 7名	35(49.3%)	2(2.8%)	34(47.9%)	4(5.6%)	21(29.6%)	5(7.0%)
A 64名						
B 173名	50(28.9%)	19(11.0%)	64(37.0%)	18(10.4%)	27(15.6%)	23(13.3%)
C 15名						
D 5名	7(35.0%)	0(0%)	4(20.0%)	1(5.0%)	6(30%)	1(5.0%)

課題研究レポートのS評価（7名）とA評価（64名）の合計71名に関しては、3つの思考力におけるA評価以上の割合が高く、C以下の評価も少ないことがわかる。例えば、レポ

ート評価がA評価以上の生徒はGPSテストの批判的思考力のA評価が49.3%であり、高1全体の割合である35%よりもかなり高い。同様に協働的思考力は高1全体の割合(39%)に対して、47.9%である。また、創造的思考力は高1全体の割合(21%)に対して、29.6%である。レポート評価BおよびC以下とGPSテストのクロス分析では有意差は見られなかった。

(5) 英語4技能検定(ベネッセコーポレーションのGTEC)結果の分析

特別の教育課程を実施するにあたり、コミュニケーション英語Iが従来より1単位少なくなったものの、対象生徒(高1)の英語4技能は昨年度と比べると3技能で高い結果(下図参照)となった。Writingの平均得点は下降しているが、235.9点から234.8点とわずか1.1点である。英語科教員の分析によると、「ジグソー法」「プレゼンテーション」「スピーチ」等を用いた教授法や「自学ノート」およびICTを用いたリスニングなど主体的な学習を取り入れたことに起因するとのことである。なお、GTECの受検は12月、受検人数は274名中266名であった。



(6) 他校からの評価

成果の普及を目的に、令和3年2月18日に管理機関が実施した「令和2年度研究指定校等に係る報告会」にてWWL事業に関する報告を県内県立高校を対象に鳥居教諭がオンラインで実施した。以下、同報告会に参加・視聴した教員によるアンケート結果を掲載する。

令和2年度 研究指定校報告会に係るアンケート結果について

令和3年2月22日(月) 管理機関による集計

第1部 長崎東高校の発表について、質問や感想があれば記入してください。

- 1 評価までよく体系化されていた。
- 2 質問はありません。スケジューリングはとても参考になりました。ありがとうございました

た。

- 3 非常に充実した取組でした。
- 4 生徒さんの探究や表現能力のレベルの高さに驚きました。学校外とのつながりが豊富であるところもレベルや興味・関心を引き上げているのだろうと思います。
- 5 「探究（長崎）チャンネル」の際、県内外の高校も参観されているとのことでしたが、高校生同士の交流・意見交換などがどの程度行われているのかをお聞きしたいです。
- 6 物凄い規模の事業形態で、綿密な事業計画がなされており大変参考になりました。事業運営のための分掌や委員会が設置されているのでしょうか。また、そこに配属されている職員数は何名くらいいらっしゃるのかが気になりました。
- 7 関心のあることにSDGsを絡めて楽しんで活動している様子がうかがえました。デジタルからリアルに変換していくことで、生きた経験から多くのことを学ぶのだなと思いました。
- 8 外部との連携を具体的にどのように構築していったのか大変興味があります。ルーブリックについてもとても参考になりました。
- 9 評価が難しい探求の時間について、つけたい力をもとに評価基準を設定している部分を参考にしながら本校でも評価基準について検討したいと感じました。
- 10 SDGsをもとにした授業を行う週間などが設けられており、学校全体で総合的な探究の時間に取り組む体制ができていると感じた。生徒の活動もルーブリックで評価が明確化されていることで、より実現可能性の高い活動となっていると感じた。
- 11 評価基準も具体的に決められていて、評価をする仕組みがしっかりできていると感じた。
- 12 ルーブリックによる評価をもっと詳しく聞きたかった。
- 13 ルーブリックを4月に有志で作成したということに驚きました。内容も発表も素晴らしかったです。
- 14 先生方も生徒の皆さんも、とても忙しくされているのではないかと思います。高等学校が担う役割がここまで拡大されるのかと思い、驚きと同時に不安を覚えました。
- 15 特にルーブリック（評価基準）の部分が参考になりました。ありがとうございました。
- 16 本校では、実現できないような内容もあり勉強になると同時に負けられない活動を展開したいと強く思いました。
- 17 感想：「目指す生徒像」に向かって、カリキュラムマネジメントや外部との提携、評価まで、全体像がしっかり関連付けられていると感じました。特にクロスカリキュラムの視点は、汎用的な思考にはとても必要であると感じます。
- 18 世界中で環境問題が大きな議題となっている中において、特にICC調査における行動力、研究などすべての取り組みに深い感銘を受けました。
- 19 育成したい力を各行事等で分類したり、ルーブリックによる評価など先進的で、沢山の事を学びました。ありがとうございます。フィールドワークをするのは、授業日にしているのか、実際に現地に行く際の費用は生徒が負担するのか知りたいです。
- 20 お忙しい中、報告会のために準備していただきまして、有難うございました。評価の在り方などについて、今後、自校での活動の参考にさせていただきます。
- 21 日頃の授業で探究活動につなげるために、研修や定期的な授業チェックを行っているのでしょうか。（ご発表にありました相互授業参観、公開授業以外で）
- 22 とても高度な実践をしていることに驚かされました。もう内容は大学レベルで、こういう

- 生徒が日本を支える人材になっていくかと素直に思われました。またその実践のための準備をする先生方の努力も大変だし、素晴らしいと感じました。
- 23 探求スキルを体系的に学ぶ、日頃の授業から探求につなげる指導が本校では不足していると感じた。また、4月にルーブリック評価表を作成したとのことで、コロナ禍の時間の使い方も素晴らしく、非の打ち所がない発表であった。
- 24 学校全体で教科の授業にSDGsの視点を取り入れる取り組みは興味深かった。教員・生徒にSDGsについての研修等を事前実施したのかどうか気になった。
- 25 文理協働の取組になっていて参考になりました。ルーブリックも汎用性が高いと感じました。
- 26 各教科の授業と総探（SDGs）を関連付けていることに感銘を受けました。
- 27 1年次のSDGsをテーマした研究活動の設定がとても参考になった。ぜひ取り入れたい。
- 28 ルーブリックを活用することで目標が明確になり、生徒の成長を確認できる点において今後の参考にしたいと思った。
- 29 学校としてどのような生徒をどのように育てるのが明確であり、中高一貫のよさも取り入れながら学校全体で組織的に進められていて参考になりました。2枚目の取組概要図、とてもよくまとめられた素晴らしい図だと思いました。
- 30 世界的視野の育成がなされていることに感激しました。地道にステップを重ねれば「Sランクにたどり着く」だけのプロセスをルーブリックとして整備されている点に学びたいと思います。
- 31 探究活動において、さまざまな学校が評価について悩んでいると思います。そのような状況で示されたルーブリックは非常に参考になるものでした。また、生徒も教員も、進学校の忙しい中で多くの活動を行い、さまざまな大会で結果を残しているところに感銘を受けました。発表を聞かせていただき、ありがとうございました。
- 32 特にありません

(7) 学校関係者評価

令和3年2月22日に実施した学校関係者評価については次ページに掲載する。

令和2年度 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 学校関係者評価 報告

1 評価の実施期日 令和3年2月22日（月）10:00～11:30

2 学校関係者評価委員

学校評議員と兼務。5名中、4名出席

3 学校関係者評価の内容

(1) 学校現況報告

・教育活動、生徒募集、国際科選抜、部活動実績、WWL活動、コロナ対策、働き方改革について

(2) 学校評価説明

・重点努力目標を中心とした分析と今後の対応について

(3) 委員からの意見等

○コロナ禍の中で学校に来る機会が減ったが、学校通信「立山の風」を毎月送ってもらい、学校の様子や取組がわかりありがたい。

○コロナ禍の中で大変だが、その中で生徒の興味を引いたり保護者の理解を得ながら、学校活動に前向きに取り組んでいる様子は、まさにピンチをチャンスにしていると感じる。

○県内に修学旅行を変更したことは、郷里の良さを再発見する機会ともなり、評価したい。

○WWLの取組などは、九州内でも先進を走っている。数々の制約の中で、逆境をプラスにしていることが窺える。

○予測困難な中で、学校でも一人一台タブレットなど新しい時代が来ている。こうした中、地域のリーダーとして本県の教育発展に寄与して欲しい。

○高総体や学習合宿、その他の行事で変更や中止が相次ぎ、高3受験生の気持ちの切り替えが難しい一年だったと思う。しかし生徒たちはモチベーションを上げ、前向きに取り組んでいたと感じる。

○コロナ禍の厳しい状況の中で、生徒たちが自らの本分を見失わず逞しく成長していること、そしてその陰で保護者や先生方の支えがあったことを窺うことができた。生徒は制約や不自由な環境の中で日常がどれほど大事であるかなど、様々なことを学んだと思う。

○コロナ禍の中で、経済的に困窮している家庭の支援を今後も行って欲しい。

○生徒アンケートで「私は周囲や相手のことを思いやって生活できている」の肯定的回答が高く、素晴らしい。一方で「私は、将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている」の肯定的回答が少なく、東中・東高の生徒としてもっと高くあって欲しい。

(8) WWL運営指導委員会

本年度は第1回を令和2年12月18日、第2回を令和3年3月22日に開催した。第1回は高校1年生の中間発表を、第2回は中学校1・2年生および高校1・2年生の本発表を委員に参観していただき、委員会でコメントをいただいた。次ページ以降に議事録を掲載する。

令和2年度 WWL 第1回運営指導委員会 議事録

- 1 期 日 令和2年12月18日(金) 14:15~16:30
(14:25~15:35は高1の中間発表参観)
- 2 場 所 長崎東中・高等学校 会議室
- 3 出席者 ○運営指導委員
- | | |
|--------------------------|-------|
| 長崎大学 副学長(地域教育連携担当) | 中村 典生 |
| 山口大学 大学研究推進機構知的財産センター准教授 | 陳内 秀樹 |
| 株式会社小川の家 代表取締役 | 小川 勇人 |
| 長崎県教育センター 研修部長 | 城 美博 |
- カリキュラム・アドバイザー
- | | |
|-----------------------|------|
| 長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐 | 山下 龍 |
|-----------------------|------|
- 長崎県WWL管理機関
- | | |
|---------------|-----------|
| 長崎県教育委員会高校教育課 | 参 事 岩坪 正裕 |
| 同 | 係 長 久保田幸成 |
- 長崎東中学校・高等学校
- | | |
|-----------------|-------|
| 校 長 | 鶴田 栄次 |
| 高校副校長 | 野村 雄大 |
| 中学副校長 | 廣瀬 忠義 |
| 高校教頭 | 田中 清 |
| WWL推進室長 | 鳥居 正洋 |
| グローバル人材育成部主任(高) | 一ノ瀬憲二 |
| グローバル人材育成部主任(中) | 岡 雅子 |
- 4 日程等(高校1年生WWL課題研究中間発表)
- 14:25~15:45 SDGs分野別に8会場でスライド発表(ポスターを廊下に掲示)
質疑応答、コメントシート記入
- 5 会次第
- 14:25~15:35 高校1学年中間発表参観
- 15:50~16:25 運営指導委員会
- (1) 管理機関あいさつ
 - (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
 - (3) 中間発表について
 - (4) 本年度の取組の中間報告(長崎東中学校・高等学校)
 - (5) 次年度の計画等について(管理機関、長崎東中学校・高等学校)
- 16:25~16:30 閉会
- (1) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
 - (2) 諸連絡等

6 出席者からの意見等

①本日の高1中間発表について

- ・ポスターの取り組みが良い。撮影（デジタルデータ化）しておいて Facebook 等で閲覧できるようにしておくとうい。
- ・テーマが多岐にわたっておりユニークである。自身の興味に沿って活動できている。
- ・テーマが SDGs と結びついていて良い。アクションや似た研究を実施しているグループが同じ会場に集まっていることもよい。
- ・場の雰囲気が良好。リラックスする時間と集中して聴く時間のメリハリができている。
- ・自由な雰囲気で取り組んでいるところがよい。教員が枠にはめて実施すれば見栄えはよくなるが、それをしない自由な発想を大切にしている。
- ・参考文献として活用できるよう図書館の蔵書を今後も増やすとよい。
- ・社会問題に鋭い関心があることに意識の高さが伺えた。
- ・文献調査があまりなかったのが気になる。
- ・安易にアンケート調査をさせるのではなく、仮説を立てさせておいてから調査させた方が研究として成立する。
- ・発表者と聴衆とのやりとりがもっとあるとさらに良い。単発の質問・回答ではなく、さらに深く質問を続けることができるとよい。
- ・質問が出にくい場合は、司会から質問するようにしてはどうか。
- ・場のつくりを工夫してはどうか。（机を脇に寄せてイスのみにする、半円形の配置にするなど）
- ・質問の時間に聴衆が下を向いてコメントシートを記入していたので、質問の時間は顔を上げさせ、コメントを記入する時間と区切りをつけるとよい。コメントシートに「質問」と「感想」の枠を設けるとよい。

②本年度の取組の中間報告について

- ・探究チャンネルなどオンラインを活用した新たな取り組みや、企業との連携が進んでいる。連携校からも参加があった。
- ・海外FWは実施できなかったが、県内のFWなど現状で可能な活動を工夫して実施できている。
- ・教育プログラムで育成したい資質・能力・マインドセットを7つ設定し、ルーブリックによる自己評価を実施した。GPS テストによる客観評価とのクロス分析も予定している。
- ・高1のカリキュラムを改訂したことで、探究学習への時間的余裕が生まれ、教科横断的な学びが展開できている。
- ・海外との協働、連携校との交流、コロナ禍の中での取組の工夫が課題。

③次年度WWL申請について

- ・タイプA（新規6拠点）に申請する方向
「グローバルな社会課題の解決や国際会議の開催を通じて世界的な活躍を目指す人材育成に向けたカリキュラム開発」

令和2年度 WWL 第2回運営指導委員会 議事録

1 目的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について生徒による発表を参観し、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。

2 期 日 令和3年3月22日（月） 9：30～16：50

3 場 所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 会議室

4 出席者 ○運営指導委員

長崎大学 副学長（地域教育連携担当） 中村 典生

山口大学 大学研究推進機構知的財産センター准教授 陳内 秀樹

株式会社小川の家 代表取締役 小川 勇人

長崎県教育センター 研修部長 城 美博

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐 山下 龍

○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会高校教育課 参 事 岩坪 正裕

同 課長補佐 白川千恵美

○長崎東中学校・高等学校

校 長 鶴田 栄次

高校副校長 野村 雄大

中学副校長 廣瀬 忠義

高校教頭 田中 清

WWL推進室長 烏居 正洋

グローバル人材育成部主任（高） 一ノ瀬憲二

グローバル人材育成部主任（中） 岡 雅子

5 会次第

9：30～ 9：45 開会行事

9：50～15：30 生徒発表

15：30～15：45 講評・閉会行事

16：00～16：45 運営指導委員会

（1）管理機関あいさつ

（2）長崎東中学校・高等学校長あいさつ

（3）カリキュラム・アドバイザーより

（4）課題研究発表会について

（5）本年度の取組の報告（長崎東中学校・高等学校）

（6）次年度の計画等について（管理機関、長崎東中学校・高等学校）

16：45～16：50 閉会

（1）長崎東中学校・高等学校長あいさつ

（2）諸連絡等

6 出席者からの意見等

①本年度の取組について

- ・コロナ禍の中、探究チャンネルなどオンラインを活用した取組が進み、150を超える連携があった。
- ・高校2年生普通科は「地方創生」をテーマにした探究学習を進めた。
- ・国内や地域に関するテーマが半数、グローバルなテーマが半数であった。ケニアからの留学生との連携はよかった。

②本日の発表について

- ・中・高生徒全員が発表する機会となった。ピアサポートとして校種や学年を越えて発表にコメントできた。
- ・高いレベルの研究もあったが、「問い」に深まりがないものも見られた。
- ・三島北高校との合同発表会となり、互いに刺激があった。
- ・課題解決策としてパンフレットやPR動画を用いたものが多い。課題意識、目的、対象をもっと絞り込んだ方がよい。生徒が自分の強みを生かそうとしている点は評価してよい。
- ・あるべき姿とやることが解離しないよう、最終的な研究のゴールを生徒に指導した方がよい。
- ・感染症を予防するハンドケア用品を企業と連携して開発した班はよかった。社会実装している。
- ・課題研究で国際大会や全国大会へ出場していることはすばらしい。夏休みを用いて生徒自身に様々なコンテストを主体的に探させて応募させてもよい。
- ・指導する先生方に温度差が見られた。教員研修を次年度は計画的にすべき。
- ・ループリック評価の観点と教科との関連性を各授業で生徒へ示すとよい。
- ・ループリックのS評価に「実現可能性」という文言があるので、生徒は表面的な解決策で落ち着いているのかもしれない。テーマを追求させ続けて、結果解決につながらなくてもよいのでは。
- ・英語での発表はできているが、聴衆に伝わるよう工夫が必要。

③今後に向けた改善、次年度の計画等について

- ・文理を融合したカリキュラムが次年度より高校2年生で実施する。
- ・高大連携について協議し、大学での高度な学びや単位取得に向けた取組を推進する。
- ・海外との協働や連携校（特にオランダやハワイ）との交流を進め、「平和」を視点とした共同研究に取り組む。
- ・研究テーマに密接な支援ができるよう Facebook でOBに連携を頼むとよい。

5 成果（生徒の課題研究）

構想計画書における短期的目標（令和2年度内）のアウトプットとアウトカムについては以下のとおりである。

アウト プット	①高校生が大学における高度な学びに取り組むための基盤整備 ②拠点校がアジア・アメリカ・ヨーロッパにおいてフィールドワークを実施 ③拠点校と県内連携校が課題研究発表会（フォーラム）を開催 ④イノベーティブな人材育成をテーマにした教員向け研究会の開催 ⑤アジア架け橋プロジェクト等を活用した留学生の受入れ
アウト カム	①拠点校・海外フィールドワーク参加者の資質・能力の向上（民間試験を活用） ②拠点校・海外フィールドワーク参加者の英語力の向上（民間試験を活用） ③拠点校の高1・2年生の20%以上が対外的なコンテスト・イベント等に参加

アウトプット①については、前述の「探究チャンネル」や「長崎チャンネル」に加え、高校2年生を対象にオンラインで実施した「高大連携講座」（実施要領は次ページに掲載）、7月19日にオンラインで参加した長崎大学感染症共同研究拠点と長崎大学熱帯医学研究所の主催によるウイルス感染症に関する特別講義などの取り組みにより基盤整備が進展したと考える。また、長崎大学感染症共同研究拠点とは次年度以降、課題研究に関する高度な学びを定常的に提供していただく方向で調整中である。また、米国モントレイ国際大学院ジェームズ・マーティン不拡散研究センター主催の平和教育プログラム（通年）や高校生による国際会議CIF（クリティカル・イシューズ・フォーラム）にもSGH指定時より継続して参加している。

アウトプット②については、コロナ禍のため海外フィールドワークは実施できなかったものの、「ハワイ平和探究プログラム」を株式会社LbEJapanと共同開発中であり、オンラインによるフィールドワークを本年度末3/29～3/31に実施する。

アウトプット③に関しては、本年度3/22にWWL拠点校であり県外連携校でもある静岡県立三島北高校の生徒19名を本校に迎え、「長崎東WWL課題研究発表会」を開催した。また次年度7月には、県内連携校との合同発表会を予定している。

アウトプット④については今年度は実施できなかったため、次年度の実施を予定している。

アウトプット⑤に関しても新型コロナウイルス感染症の影響により、受け入れはなかった。

アウトカム①②については海外フィールドワークが中止となったため、参加者を対象とした資質・能力を測定することはできなかったが、高1学年全体の測定については前述（p.8～p.9）したとおり、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」および英語4技能検定において、前年度の生徒よりも多くの評価項目で高い数値であった。

アウトカム③については高1生徒が40名（14.6%）、高2生徒が64名（23.9%）であり、高2生徒は目標数値を達成できた。

令和2年度 長崎大学による高大連携講演会 実施要領

- 1 目的 長崎大学の教員とオンラインを通じた交流を行うことにより、進路意識を高める。また、専門的な内容に触れることで「探究」の活動をより豊かなものとし、課題研究の一助とする。
- 2 期 日 令和2年11月10日（火） 6・7限
- 3 対象生徒 高校2学年（267名）
- 4 日 程

13:00～13:45	5限
13:45～14:00	掃除
14:05～14:15	会場設営・準備
14:15～15:15	講演会
15:15～15:45	大学・学部紹介、質疑応答、お礼の言葉

5 実施講座と使用教室

学 部	講師氏名	使用教室	参加数	担当者	
多文化社会	見原 礼子 准教授	CALL 教室	43	富野、ジャック	Z
経済	山口 純哉 教授	社会科教室	43	中島、田中貴	Z
教育	内野 成美 教授	高2-2	36	古川、笹井	Z
工（機械工学）	矢澤 孝哲 教授	高2-6	16	中須賀	T
工（電気電子工学）	藤本 孝文 准教授	高2-7	9	川田	T
工（構造工学）	佐々木 謙二 准教授	会議室	22	泉、田中正	T
医（保健）	浜崎 美和 助教	視聴覚教室	37	橋口、大村	Z
薬	金子 雅幸 教授	高2-5	27	宮崎亮、松本	T
情報データ	小林 透 教授	高2-3	12	宮本、木下	Z
環境	高巢 裕之 助教	高2-4	22	田中良、鳥居	Z

※全体…楠本

6 拠点校としての取り組み

本報告書 p.9 に記載したとおり、成果の普及として本校WWL推進室長の鳥居正洋教諭が県立高校教員を対象に研究報告を行った。また p.3～p.5 に記載したとおり、「探究チャンネル」や「長崎チャンネル」を実施し、連携校だけでなく県全体へ案内し、県内外から複数の学校の参加があった。探究活動に関する学校情報誌「ワールドワイドレポート」を12号発行し、中高全保護者へ配布すると共に、HPにも掲載している。また新たに Facebook を立ち上げ、WWLプログラムの案内や成果普及を行っている。

3月22日にはWWL拠点校であり、本校の県外連携校でもある静岡県立三島北高校の生徒19名との合同課題研究発表会を実施し、本校の中・高全生徒が課題研究成果を発表した。

7 まとめ

SGH 指定時の課題として企業や行政機関との連携が少なかったが、本年度は述べ約100の企業や行政機関と連携しフィールドワークや探究学習への助言をいただくことができた。主な連携先と内容についてはp.26～p.27「参考資料5」に掲載する。

8 課題と次年度の改善策

本年度、高校1、2年生では海外とのオンライン交流を複数回実施し、共同研究が評価され世界最大の経済教育団体ジュニアアチーブメント主催の国際コンテスト「TTBiz」で4位入賞することができた。また中学では、交流相手を確保することが困難であり、海外との交流を実施することができなかった。グローバルリーダーとして活躍したい生徒を増やすために、オンラインによる交流プログラムや留学生とのグローバルリーダープログラムが有効であると考えられる。さらに、グローバルリーダーによる講話を複数回開催することで、ロールモデルを構築したい。すでに令和3年3月29日から3月31日にかけて実施する「ハワイ平和探究プログラム」を株式会社LbEJapanと共同開発中である。中高51名が留学生リーダーによるオンライン交流プログラムに参加予定である。平和を軸とした国際会議開催に向けて、生徒による実行委員会を立ち上げ、ハワイ、オランダ、ベトナム、中国、韓国等の高校生との交流を増やしたい。

探究学習を推進するための教員研修会は、一部の教員間で他校教員との研修を実施できたものの、大規模かつ系統的に実施することができなかった。また県内・県外連携校との交流会や発表会の開催についても次年度の実施を目指したい。

課題研究に関する全国大会レベルの出場については以下のとおりであり、SGH時よりも数値を伸ばすことができた。

期日	大会名	主催者	参加数	上位入賞
11/14	全国高校生SRサミット	立命館宇治中学校・高等学校	高2（4名）	審査なし
12/20	全国高校生フォーラム	文部科学省	高2（4名）	—
2/13	静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション大会 WWL 部門	三島北高校	高2（4名）	—
3/14	TTBiz2020	ジュニアアチーブメント	高2（2名） 高1（1名）	4位相当
3/20	全国高校生SDGs選手権	株式会社花形	高2（4名）	3位相当
3/24	第6回高校生国際シンポジウム（3グループが会場）	一般社団法人 Glocal Academy	高2（3名） 高1（6名）	優秀賞1 （2位）
3/27	広島県WWL国内フォーラム	広島県教育委員会	高2（1名） 高1（1名）	審査なし

参考資料1 「WWL 7」

活動内容： 1 授業・定期考査 2 清掃活動 3 探究活動 4 部活動 5 進路行事 6 生徒会・係活動 7 ボランティア 8 その他（自由記述）

No	WWL 7	定義	評価項目				
			S (変革)	A (創造)	B (思考)	C (習得)	D (未達成)
			『かえる・かわる』	『つくる』	『できる』	『わかる』	—
			習得した知識・技能を活用し、 <u>実現可能性のある新たな価値を創造</u> できる。	習得した知識・技能を活用し、 <u>新たな価値を創造</u> できる。	習得した知識・技能を活用し、 <u>思考</u> できる。	基礎となる知識・技能を習得している。	基礎となる知識・技能を習得していない。
思考力・判断力・表現力	1 課題発見・解決力	主体的に課題に向き合い発見・解決する力	自らの力で諸事象に対して社会的・学問的意義のある課題を発見し、 <u>根拠をもとに、他分野との関連性があり実現可能性のある解決策を提示</u> できる。	自らの力で諸事象に対して社会的・学問的意義のある課題を発見することができ、 <u>根拠をもとに、他分野との関連性がある解決策を提示</u> できる。	教員の支援があれば、諸事象に対して社会的・学問的意義のある課題を発見することができ、 <u>根拠のある解決策を提示</u> できる。	教員の支援があれば、諸事象に対して課題を発見することができ、 <u>一応の解決策を提示</u> できる。	教員の支援を得ても、諸事象に対して課題を発見することができない。
	2 創造力	学んだことを活用し、 <u>新たな価値を創造</u> する力	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら論理的に思考し、 <u>価値的で独自性があり実現可能性のある発想</u> ができる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら論理的に思考し、 <u>価値的で独自性のある発想</u> ができる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容が理解でき、それらの知識を活用しながら論理的に思考できる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容を理解できる。	各教科・科目や探究学習等の基礎的な内容を理解できない。
	3 情報分析・活用力	物事を多角的に捉え、 <u>情報を選択・分析・活用</u> する力	諸事象を多角的に捉え、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取り、それらを関連付けて <u>実現可能性のある自説の根拠として適切に活用</u> できる。	諸事象を多角的に捉えることができ、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取り、それらを関連付けて <u>自説の根拠として適切に活用</u> できる。	諸事象の因果関係が理解でき、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取り、 <u>それらを関連付けて一つの結論を導き出す</u> ことができる。	諸事象の因果関係が理解でき、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取ることができる。	諸事象の因果関係を理解できず、複数の資料（文献・図表・グラフ等）から情報を読み取ることができない。
	4 自己表現力	考え・意見を発信し、他者に <u>影響を与える</u> 力	他者の意見を読み解き、相手の立場を尊重した適切な表現で自らの考えや意見を発信し、 <u>他者の行動に良い変化を起す</u> ことができる。	他者の意見を読み解き、相手の立場を尊重した適切な表現で自らの考えや意見を発信し、 <u>他者の考え方に良い変化を起す</u> ことができる。	他者の意見を受け入れ、 <u>相手</u> が理解しやすいように表現を工夫し、自らの考えや意見を発信することができる。	他者の意見を受け入れ、 <u>自分</u> の考えや意見を発信することができる。	他者の意見を受け入れることはできるが、 <u>自分の意見</u> を他者に発信することができない。
学びに向かう力・人間性等	5 協働性	多様な人々と対話や議論を通じて <u>協働する姿勢</u>	協力の大切さを理解して、自分と価値観が大きく異なる他者とも、共通の課題解決のために <u>共に行動し、実現可能性のある解決策を提示</u> できる。	協力の大切さを理解して、自分と価値観が大きく異なる他者とも、共通の課題解決のために、 <u>共に行動し、解決策を提示</u> できる。	協力の大切さを理解して、 <u>他者の意見を尊重しながら</u> 、共通の課題解決のために、 <u>共に行動</u> することができる。	協力の大切さを理解して、 <u>他者と共に行動</u> することができる。	協力の大切さを理解することが難しく、 <u>他者と共に行動</u> することができない。
	6 学ぶ意欲	学問に関心を持ち、自ら <u>高度な学びに向かう姿勢</u>	各教科・科目や探究学習等について <u>真剣に学び</u> 、学校の履修内容以外に学問的素養の高い探究的な学びを自ら行い、 <u>大学や外部機関とのネットワークを構築</u> している。	各教科・科目や探究学習等について <u>真剣に学ん</u> でおり、学校で履修する学習以外に、 <u>学問的素養の高い探究的な学びを自ら行</u> っている。	各教科・科目や探究学習等について <u>学ぶ意欲</u> があり、与えられた課題に取り組むことに加え、 <u>各教科について復習などの学習を自ら行</u> っている。	各教科・科目や探究学習等について <u>学ぶ意欲</u> があり、 <u>与えられた課題</u> に取り組むことができる。	各教科・科目や探究学習等について <u>学ぶ意欲</u> がない。
	7 地球市民性	世界平和を希求し、 <u>持続可能な社会に貢献する姿勢</u>	世界平和や持続可能な社会について <u>関心</u> があり、それらを実現するために <u>継続して行動</u> しており、その普及に努めている。	世界平和や持続可能な社会について <u>関心</u> があり、それらを実現のために <u>継続して行動</u> している。	世界平和や持続可能な社会について <u>関心</u> があり、それらを実現のために <u>機会があれば行動</u> している。	世界平和や持続可能な社会について <u>関心</u> がある。	世界平和や持続可能な社会について <u>関心</u> がない。

知識・技能

…全てを網羅する力として整理

参考資料 2

総合的な学習の時間、IGR、水曜日と金曜日の7校時に関するカリキュラムマネジメント

総探	水7	IGR	金7
4/16 (木) 東志行「SDG s を知ろう」		4/17 (金) IGR オリエンテーション	
5/13・20 アフターコロナを想像(創造)しよう①	アフターコロナ ワークシート記入	5/15・22 廣松先生講演「国際社会、SDGs」	
5/27 (水) アフターコロナワーク②		5/29 (金) ミニ講演会「大学での学び」(本校教員)	
6/3 (水) アフターコロナワーク③		6/5 (金) 県庁オンライン講演会	アフターコロナ ワークシート記入
6/10 (水) アフターコロナワーク④		6/12 (金) キャリアパス説明集会	キャリアパス(進路について)記入
6/17 (水) アフターコロナクラス発表会	アフターコロナクラス発表会	6/19 (金) WWLループリック説明	フォーサイト(スケジュール管理手帳)整理
6/24 (水) 学級独自	主体的学びの時間 (自学、質問)		
7/1 (水) 問いたて①		7/3 (金) 課題研究ガイダンス(昨年度のフォーラム視聴)	1学期の振り返り
7/8 (水) 問いたて②	問いたて③	7/10 (金) テーマと問いの共有	LGBT への取組①(男子更衣用目隠し作成)
7/15 (水) 仮説を考えるワーク	カウンセラー講演会	7/17 (金) WWL運営指導委員陳内先生講演①(知的財産)	主体的学びの時間
7/29 (水) 問い立て④		7/31 (金) WWL運営指導委員陳内先生講演②(探究)	
8/5 (水) アクションプラン作成①		8/7 (金) LGBT への取組②	
		9/11 (金) 自己評価入力、キャリアパスポート記入 インタラクション①(研究テーマ、班編制、研究計画)	自己評価入力、キャリアパスポート記入、インタラクション②
9/16 インタラクション③	主体的学びの時間	9/18 校内FW(2年生と本校職員へ課題研究の質問)	主体的学びの時間
10/7 アクションプラン作成②	進路学習(夢ナビ)		自主的な活動(リサーチ、情報分析・整理等)

総探	水7	I G R	金7
10/21 インタラクシヨン④	発表準備	10/23 ポスター作成	発表準備
10/28 第1回クラス発表会	第1回クラス発表会	10/30 クラス発表会振り返り	自主的な活動
11/4 進路研究	アクションプラン 作成③、インタラク シヨン⑤	11/6 アンケート講座	自主的な活動
		11/13 研究分析講座 （長崎大学名誉教授溝 田先生）	研究分析講座 自主的な活動
11/18、11/25 インタラクシヨン⑥⑦ 発表準備	自主的な活動	11/20 論文講座 （大分大学麻生教授）	自主的な活動
11/25 インタラクシヨン⑧ 発表準備	自主的な活動	12/4 発表準備	発表準備
12/9 第2回クラス発表	第2回クラス発表	12/11 クラスリフレクシヨン	代表者発表準備
12/16 代表者中間発表準備、主体的 な学びの時間	代表者中間発表準備、主体的な学びの 時間	12/18 中間発表	中間発表
1/27～2/10 レポート作成・発表準備	レポート作成・発表 準備	レポート作成・発表準備	レポート作成・発表準備
2/24 発表準備	発表準備	2/26 クラス発表会ファイナル	
3/3, 17 WWL 課題研究発表会ステー ジ代表発表会	自主的な活動	3/5, 12, 19 発表準備	発表準備
3/22(月) 令和2年度 長崎東WWL課題研究発表会（終日、全員発表）			

参考資料3 高校1年生自己評価（令和3年1月実施）

令和2年度学校評価に係る生徒アンケートまとめ【高校1年生】						
番号	※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	令和2年度の結果(%)				項目4+3
		4	3	2	1	R2
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	32.7	58.7	8.2	0.4	91.4
2	東高の生徒は、気持ちのいい挨拶ができています。	16.4	61.0	20.8	1.9	77.3
3	東高の生徒は、容儀・服装をきちんとしています。	48.3	48.3	3.3	0.0	96.7
4	東高の生徒は、毎日きちんと掃除に取り組んでいる。	29.4	60.6	10.0	0.0	90.0
5	私は、スマホ等の使用時に、モラル意識を持ってマナーを守っている。	52.0	42.4	4.8	0.7	94.4
6	私は、午後9時以降にメール等を送らないようにしている。	11.5	30.1	38.7	19.7	41.6
7	私は、バスマナー等の公共交通機関利用のルールを守っている。	63.6	35.7	0.4	0.4	99.3
8	私は、奉仕的な活動を行ったり、参加したりしている。	4.8	29.0	49.1	17.1	33.8
9	私は、校外での研修(フィールドワーク、調査、講演会等)に積極的に参加している。	7.8	15.6	48.3	28.3	23.4
10	私は、海外語学研修や留学を積極的に行った。	6.3	14.5	16.4	62.8	20.8
11	私は、将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている。	12.3	30.5	43.1	14.1	42.8
12	私は、「ひがし」の学校行事に積極的に参加している。	40.5	47.6	11.2	0.7	88.1
13	東高は、生徒会活動や学級の委員会活動が充実している。	22.3	51.7	23.4	2.6	74.0
14	私は、日頃から自主的・自律的な活動を心がけている。	20.1	64.3	14.5	1.1	84.4
15	私は、下校時刻を守っている。	84.8	14.1	1.1	0.0	98.9
16	私は、学習と部活動の両立(中1は学習習慣の確立)に努めている。	33.1	55.4	10.4	1.1	88.5
17	私は、東高の部活動に意欲的に参加している。	58.0	29.7	7.8	4.5	87.7
18	私は、朝の読書に熱心に取り組んでいる。	50.2	40.9	7.4	1.5	91.1
19	東高に入学してよかった。	41.3	49.8	7.8	1.1	91.1
20	私は周囲や相手のことを思いやって生活できている。	40.1	53.5	5.9	0.4	93.7
21	私は環境問題に関心があり、何らかの取組を実践している。	38.7	44.2	10.8	6.3	82.9
22	私はふるさとや地域社会、あるいはSDGs等の課題について考えたりすることを含め、政治や選挙に関心をもって主体的に社会参画を目指している。	24.5	49.1	20.4	5.9	73.6

参考資料4 高校1年生保護者評価（令和3年1月実施）

令和2年度学校評価に係る保護者アンケートまとめ【高校1年保護者】						
番号	項目 ※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	令和2年度の結果(%)				項目4+3 R2
		4	3	2	1	
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	31.7	60.9	7.4	0.0	92.6
2	「ひがし」は、生徒の社会的自立を支援している。	31.3	59.2	8.8	0.7	90.5
3	「ひがし」の生徒は、容儀・服装をきちんとしている。	50.0	48.6	1.4	0.0	98.6
4	私は、「ひがし」の生徒指導(生活面の指導)に満足している。	28.5	66.2	4.6	0.7	94.7
5	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	38.7	52.8	8.1	0.4	91.5
6	私は、「ひがし」の学校行事に満足している。	21.8	66.9	9.9	1.4	88.7
7	「ひがし」は、生徒会活動や学級の委員会活動が充実している。	20.4	70.8	8.5	0.4	91.2
8	生徒は、学習と部活動の両立(中1は学習習慣の確立)に努めている。	34.2	55.3	9.9	0.7	89.4
9	私は、「ひがし」の部活動に満足している。	28.2	59.9	10.2	1.8	88.0
10	「ひがし」に入学させてよかった。	53.5	41.5	4.6	0.4	95.1
11	「ひがし」は、生徒一人ひとりを大切にされた指導を行っている。	31.0	59.9	8.8	0.4	90.8
12	「ひがし」と学校関係者(保護者・地域・同窓会等)との連携は円滑である。	18.7	67.3	14.1	0.0	85.9
13	私は、「立山の風」やHP、メールメイト等での「ひがし」からの情報提供に満足している。	32.7	54.2	12.3	0.7	87.0
14	「ひがし」は、生徒募集に向けた広報活動に努めている。	20.4	64.8	14.8	0.0	85.2

参考資料5 WWLコンソーシアム 主な連携先と内容

【WWLコンソーシアム 企業・団体・大学・高校】						
No	区分	事業協働機関、事業連携校	代表者・担当者	対象	令和2年度実績	R2協働
1	企業・団体	長崎新聞社	河野広告部長 酒井環 報道部記者	高1、高2	探究チャンネル（10月）	○
2	企業・団体	ハウステンボス	茶屋伊三郎 柚木達矢	中3、高1	探究チャンネル（10月） 長崎FW（11月） 修学旅行（10月）	○
3	企業・団体	協和機電	総務グループ 原田慎太郎 松園理恵子	高1、高2	探究チャンネル（10月）	○
4	企業・団体	九州教具	船橋修一 社長 経営管理本部 内村灯	高1、高2	探究チャンネル（10月） 長崎FW（11月）	○
5	企業・団体	(株) イシマル	石丸利行	高1、高2	探究チャンネル（10月）	○
6	企業・団体	長崎日蘭協会	中村哲	(オランダ研修参加者)	—	×
7	企業・団体	十八親和銀行	森拓二郎		—	×
8	企業・団体	JICA九州長崎デスク	戸崎千尋	中2、中3、高1、高2	探究チャンネル（10月） ケニア人交流、その他（随時）	○
9	企業・団体	にこにこ一般財団 (ドイツ国際平和村)	角田弘子 宍倉エアピック妙子	高1、高2	講演会（オンライン）（5月）	○
10	企業・団体	ジャパネットホールディングス	山下沙弥香 井田祐介	高1、高2	探究チャンネル（10月）	○
11	企業・団体	NPO法人地域循環研究所	山口龍虎 豊澤健太	高1、高2	探究チャンネル（10月）	○
12	企業・団体	三菱重工業 ダイヤモンドオフィスサービス	下田恵美 総務本務部長崎総務グループ石井勇毅	高1、高2	講演会（オンライン）（11月）	○
13	大学	長崎大学	経済学部FFG（十八親和銀行） 山下淳司 教授 上條由紀子 教授	高1、高2	探究チャンネル（10月） 研究室訪問（11月）	○
			経済学部 高橋史早 助教	高1、高2	研究室訪問（11月）	○
			熱帯医学研究所 森田公一 所長 奥村順子 教授	中3、高1、高2	熱帯夏塾（オンライン講演）（7月） 研究室訪問（11月）	○
			感染症共同研究拠点地域連携部門 養毛悦子	中3、高1、高2	熱帯夏塾（オンライン講演）（7月） 公開講座（12月）	○
			教育学部 倉田伸 准教授 池谷和子 准教授	高1、高2	研究室訪問（11月）	○
			工学部工学科機械工学科 山本研究室 松浦栄人	高1、高2	研究室訪問（11月）	○
			水産学部 瓜生慎太郎	高1、高2	質疑応答、海援隊交流（11月～）	○
			医学部 松本恵教授	中3、高1、高2	AYAweek講演会（3月）	○
			溝田勉名誉教授 (元国連・ユニセフ駐日代表)	中2、中3、高1、高2	課題研究等への助言（通年）	○
			多文化社会学部（見原礼子准教授） 経済学部（山口純哉准教授） 教育学部（内野成美教授） 工学部（矢澤孝哲教授 藤本孝文准教授 佐々木健二准教授） 医学部（浜崎美和助教） 薬学部（金子雅幸教授） 情報データ科学部（小林透教授） 環境科学部（高巢裕之助教）	高2	高大連携講座（11月）	○
			国際社会学部 小原篤次 准教授	高1、高2	探究チャンネル（10月） 研究室訪問（11月）	○
			看護栄養学部栄養健康学科 荒木彩 講師	高2	研究室訪問（11月）	○
			企画広報グループ 藤原誠吾 在福岡米国領事館	高2	外交官グローバルランチオンライン セミナー（10～12月）	○
15	大学	長崎純心大学	荒木慎一郎 人文学部長 学事課長 永友貴之 Simon Hull 講師	高1、高2	探究チャンネル（10月）	○

16	連携校	長崎西高等学校	本村公秀校長		—	×
17	連携校	長崎南高等学校	後藤慶太校長		—	×
18	連携校	大村高等学校	原昌紀校長		探究チャンネル参観（10月）	○
19	連携校	佐世保北中学校・高等学校	鶴田勝也校長		—	×
20	連携校	諫早中学校・高等学校	原田尚之校長		—	×
21	連携校	壱岐高等学校	平山啓一校長 長岡康孝主任		探究チャンネル参観（10月） オンライン交流会（11月）	○
22	連携校	対馬高等学校	田川耕太郎校長		対馬FWにて意見交換（10月）	○
23	連携校	静岡県立三島北高校	齊藤浩幸校長 菊池正博教頭 中島由美		FALcon（2月） 課題研究発表会（3月）	○
24	連携校	立命館宇治中学校・高等学校	ヒックスジョーゼフ校長 上杉兼司副校長 水口貴之		FOCUS（11月）	○
25	連携校	広島市立舟入高等学校	日浦毅校長 三戸洋平教頭		広島WWL 国内フォーラム（3月）	○
26	連携校	広島女学院中学校・高等学校	渡辺信一校長		広島FWにて意見交換（10月）	○

【令和2年度 新規協働先の内、現在まで長期的に協働している企業・団体】

No	区分	連携機関	代表者	対象	令和2年度実績	次年度
1	企業・団体	すはだみらい研究所	大嶋太郎	高2	探究FW～（11月～） ハンドケア用品共同開発	継続
2	企業・団体	隆起エンジニアリング	西村司 社長	高2	全国SDGs 選手権（1月～） 水筒共同開発予定	未定
3	企業・団体	リボン		高2	探究FW～（11月～）	継続
4	企業・団体	つくるのわデザイン	岩本諭	高1、高2	探究FW～（11月～）	継続
5	企業・団体	平尾ダンボール	平尾秋成	高2	探究FW～（11月～）	継続
6	企業・団体	WTOC「教室から世界一周！」プロジェクト	堂原有美	高1、高2	探究チャンネル（6月） カリフォルニア州サリノス校と ディスカッション	継続

【令和2年度 上記協働機関以外の協力大学・上記連携校以外で協働した高校】（主なもの）

《大学》京都大学・神戸大学・九州大学・九州工業大学・大阪学院大学（探究チャンネル 5月）山口大学（知的財産センター 陳内准教授講演会 7月）
長崎外国語大学（長崎FW 11月）大分大学（論文講座 11月）北九州市立大学（生徒質疑 11月）APU（講演会 12月）
マンチェスター大学（意見交換 2～3月）モントレー国際大学院（オンライン講演 通年）
《高校》松浦高校（松浦FW 8月）長崎北高校・西陵高校・佐世保商業高校・兵庫県立明石商業高校（探究チャンネル参観 10月）五島南高校（長崎FW 11月）

【令和2年度 協力行政機関等】（主なもの）

長崎県庁政策企画課（講演 6月）雲仙市役所・小浜温泉エネルギー・諫早市役所・五島市役所・五島市観光協会・五島中央病院・対馬市役所・対馬CAPPA・松浦市役所・佐世保市役所・海きらら・長崎市役所・国立長崎原爆死没者追悼平和記念館・長崎国際観光コンベンション協会・長崎市老人クラブ連合会・長崎大学病院・長崎警察署・長崎県総合水産試験場・長崎県営バス・高城台小学校・伊良林小学校・愛宕小学校（長崎FW 11月）広島平和教育研究所（広島FW 10月）